

「高岡を前へ！まちづくりミーティング」意見交換要旨【戸出コミュニティセンター】

質問

総合計画は、10年で何をやるのかが見えない。第3次基本計画までの反省をどこまで把握しているのか。その反省を第4次基本計画に反映するべき。それが具体的に見えてこない。より具体的に、スピーディに取り組んでほしい。また、その結果を市民に分かりやすく見えるようにしてほしい。

回答

総合計画第4次基本計画は、5年前に策定した10年間の計画である基本構想の後期5か年計画である。第3次基本計画については今年度、最終的な数値等が確定した段階で総括することとしている。

また、総合計画では、目標とする指標を設定しており、その達成状況を毎年総合計画審議会に報告し、ご意見をいただいている。各政策分野のプランなど個々の計画についても、設定した数値目標等について総括し、それぞれ委員会や審議会等に報告している。

総合計画の達成状況は、市広報紙やホームページ等で公表しているが、市民の皆さんに伝わっていない点が課題。

市民の皆さんに、市役所が何をやろうとしているのか、どういった結果が出ているのか、どういう成果があったのか、をより分かりやすく伝える手段を検討している。見せ方、伝え方を課題と受けとめており、改善してまいりたい。

質問

隣家に認知症のお年寄りがいる。ゴミを隣の町内に捨てに行くなどの問題があった。他の地域でも孤立しているお年寄りがいると思う。そういったお年寄りがだんだん増えてくると思うので、把握をお願いしたい。

回答

市として、今後どのようにして単身高齢者を支えていくかというのは大きな課題。特に認知症を患っている方については、近所の方々にもお悩みが多いと聞いている。改善できる点を見つけ、市として新しい取り組みも進めるが、地域で求められている形があれば、いろいろとアイデアをいただきたい。

質問

市のがん検診について、若い人の受診率が低い。開始時間（午前8時）が早いと感じる。時間を変えれば若い人の受診率が上がるかは分からないが、受診率を上げるために、若い人の意見を聞いてみてはどうか。

回答

がん検診については、若い世代の人がこの検診をしっかりと受けることができる形が必要だと思っており、ご意見を前向きに捉え、検討していく。

質問

お昼時間でも、受け付けや事務処理をしてもらえるということで市役所へ行ったが、二階に上がったところ、女性陣が食事をしながら雑談していた。

回答

市の職員も昼食、休憩が必要であるが、その場所がないという現状がある。とはいえ、来庁者が不快になるようなことがあってはいけない。この点はしっかりとすべての市職員に伝えさせていただく。しかしながら、少しずつ市職員が変わってきていることを感じている。市民の皆さんから「窓口明るくなったよ。」「市の職員、付いて来てくれたよ。」といった声をいただくようになった。そういった信頼を一つ一つ積み上げていくことが大切だと思っている。

質問

戸出福祉会では 0 歳～100 歳までの地域づくりを行っている。こういったことに、高岡市も一緒になって取り組んでもらいたい。

回答

戸出福祉会の取り組みは、我々としても、素晴らしい取り組みだと思っており、支援していきたいと考えている。一方で、既存のルールの中でできることもあれば、なかなかできないこともあるのが現状。都度ご相談いただきながら、課題を一つ一つクリアしていくことで、夢に描いた戸出の福祉の拠点が生まれるものだと思う。

質問

不妊治療が保険適用となったが、負担がこれまでより増えることはないのか。

回答

この4月から不妊治療が保険適用となり自己負担が3割になった。これまで、10割負担に対し、市独自に75,000円を支援していたが、自己負担が3割になっても市は、これまでと変わらず1回あたり75,000円を支援している。利用者の負担はむしろ軽くなったと考えており、治療を受ける人の負担が増えることはない。他の要件についても、これまでは市内に1年間居住していないと助成を受けることができなかったが、1年以上居住する見込みがあれば助成の対象とした。また、42歳364日（43歳未満）までだった治療費用の助成対象となる年齢制限についても撤廃した。

産みたいと思う人が挑戦する環境は、高岡市が県内 15 市町村の中で一番整っていると思う。どのような結果が出るか、1 年後に検証し、必要な施策に磨き上げていく。

質問

高岡市には、高岡大仏や瑞龍寺、金屋町、古城公園など多くの観光資源があるが、それらを巡るバスを走らせては。現在路線バスも少ないため、そのバスを市民が生活でも利用できるような形にしては。

回答

市内の観光地は点在しており、こうした点を結ぶ手段は必要。一方、観光の足と地域の足を同じ仕組みで賄うことは難しいと考えている。地域の足は、しっかりと地域で確保することが大切である。

高岡市では、過去にも、「利長くんバス」や「まわるん」といった、市内の観光地を回るバスを企画したが、利用者が少なく、厳しいご指摘をいただいた時期もある。交通事業者とも協議をしながら、色々なことを試みたが、なかなか軌道に乗らなかった。その後、タクシー事業者と小回りが利く形で観光タクシーの取り組みなども進めていたが、コロナ禍の影響もあり、現在は別の形で何かできることはないかを検討している。

質問

ベビーファースト運動について市長もメッセージを発信されていたが、子育てや孫育てをされている方へ、市長から熱いメッセージをお願いしたい。

回答

人口は減少し続けている。これを何とかするためには、地域を支えてくれる皆さんが、本当にこの地域で暮らしたいと思う高岡にしていかなければならない。

赤ちゃんの声は、地域の活力になると思っている。赤ちゃんを大事にするのはもちろん、私たちが次の世代から見られている大人だということを理解して、背中を見せていくことがベビーファースト運動の本当の意味だと思っている。

現在、ベビーファースト運動と銘打った活動はしていないが、ベビーファーストという精神をしっかりと理解した上で、様々な事業を展開していきたい。

以上